平成 26 年度　東京都内湾水生生物調査　10 月稚魚調査　速報

●実施状況

平成 26 年 10 月 23 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 14.4～15.2℃、風は弱く海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 34 分、22 時 52 分、満潮は 4 時 39 分、16 時 21 分であった（東京都港湾局のデータ）。また、当日26ミリの降雨があった。

8 月と比べると、魚類は種類数、個体数ともに少なくなっており、葛西人工渚では、現地での目視では魚類は確認されなかった。

2014/10/23	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10:50-11:42	9:25-10:20	12:36-13:35
水温(℃)	19.9	19.3	17.5
塩分	14.8	24.9	19.7
透視度(cm)	63	100 以上	67
DO(mg/L)	4.7	4.4	7.3
DO飽和度(%)	56.2	54.8	86.2
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH	7.1	7.5	7.8
水の臭気	下水臭	無臭	無臭
備考	水はやや濁っていた。 調査場所周辺では、下水の臭いがした。	観光客が 2 名、ウインドサーフィンをしている人が 1 名で、潮干狩り客はいなかった。 水の透明度は高く、波打ち際近くの海底では、アオノリ類の生育が確認された。	波打ち際付近では、遊泳する魚類は確認されなかった。

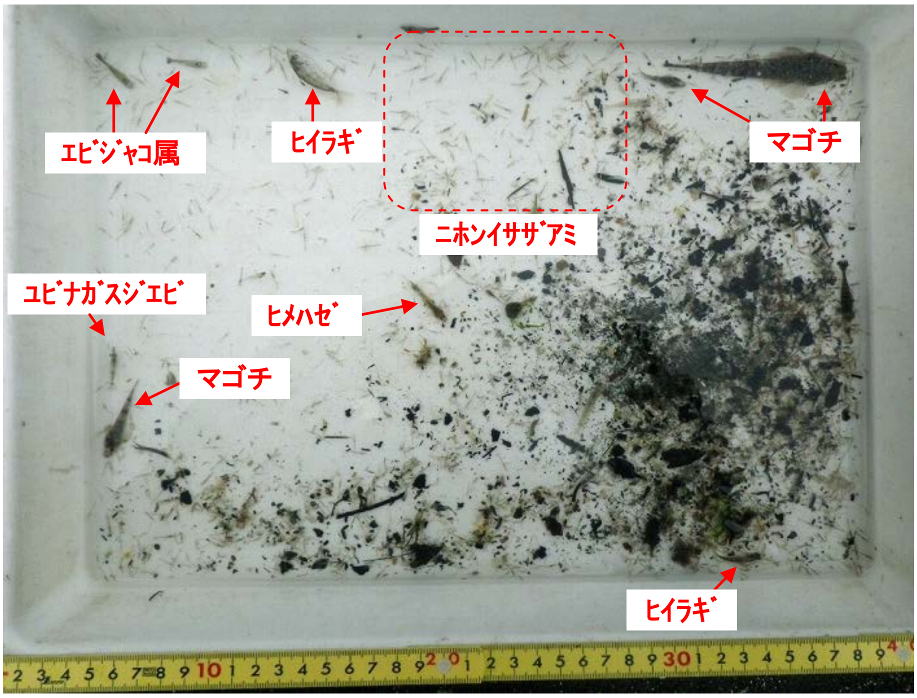
●主な出現種等　（速報のため、種名などは未確定）

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 （多い順注）	マゴチ（r）	ビリンゴ（c）	
	ヒイラギ（r）	ヨウジウオ（r）	
	ヒメハゼ（r）	ヒメハゼ（r）	
		アシシロハゼ（r）	
		コボラ（r）	
魚類以外	ニホンイサザアミ（m） エビジャコ（+）	ユビナガホンヤドカリ（r） エビジャコ(r)	ニホンイサザアミ（G） シラタエビ（c）
備考	他にユビナガスジエビ、シラタエビ等が確認された。	他にアミメハギ、アサリ、アラムシロガイ等が採取された。 また、プランクトンのカラカサクラゲが採取された。	現地では、採取試料中に魚類は確認されなかった。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋　採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。
近くには東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等

内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。
干潟域や人工海浜、砂浜海岸などの浅所では1～6cm 程の稚魚がみられるが、成長するにつれて徐々に深い場所へと移動する。
砂泥底にひそみ、底生生物や小型の魚類を餌としているため、体は平たく、体の模様も砂の色にそっくりである。

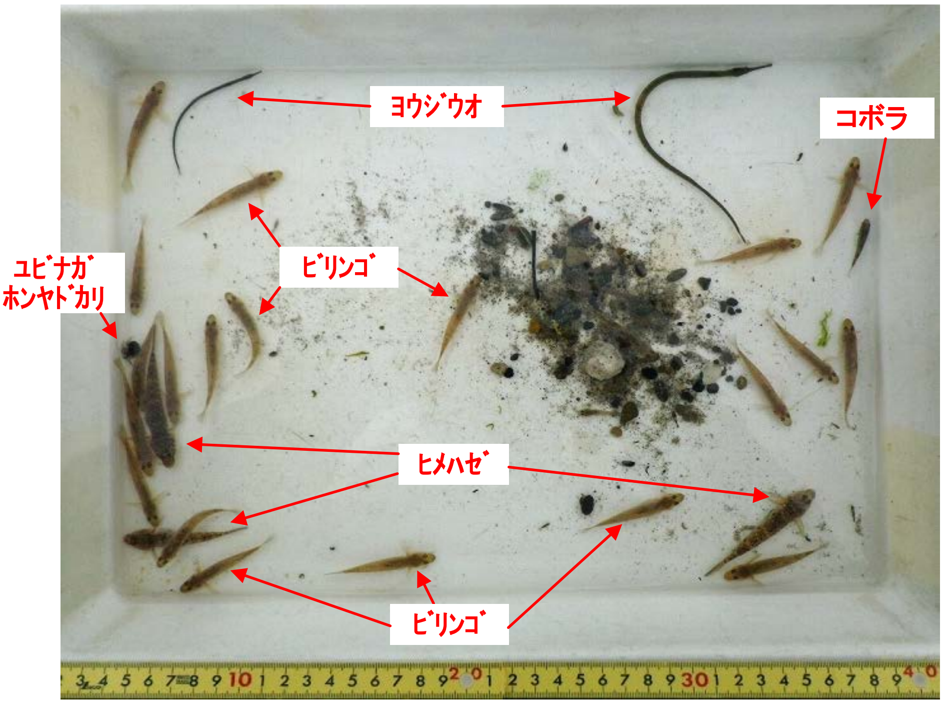
東京湾では、湾全域の干潟域や砂浜海岸、漁港などで普通にみられる。
干潟域や人工海浜でみられる稚魚は、動物プランクトンを食べて成長し、10 月には3～4cm 程になる。

内湾の河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。
体の模様は砂の色にそっくりである。

汽水域に生息するアミの仲間（エビの仲間でない）である。
魚類等の餌となり、食物連鎖において植物プランクトン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要な役割を果たしている。

内湾の砂泥底に生息し、魚類の稚魚などを捕食することが知られている。

お台場海浜公園　採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。背後には、東京臨海副都心の高層ビル群がみえる。

●主な出現種等

河川下流域から河口域におもに生息し、早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。
中層を群れで泳ぎ、動物プランクトン等を食べている。

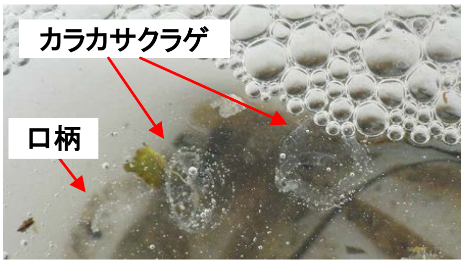
東京湾で最も普通にみられるヨウジウオ科魚類であり、湾央から外湾にかけてのアマモ場に多い。
全長 30cm 程度になる。

内湾の河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。
体の模様は砂の色にそっくりである。

ボラ類の中では比較的小型の種類で、内湾の浅所や汽水域に生息する。南方系の種類で、東京湾では、干潟域や砂浜海岸などで夏に体長 1.5～3cm の稚魚が採取される。

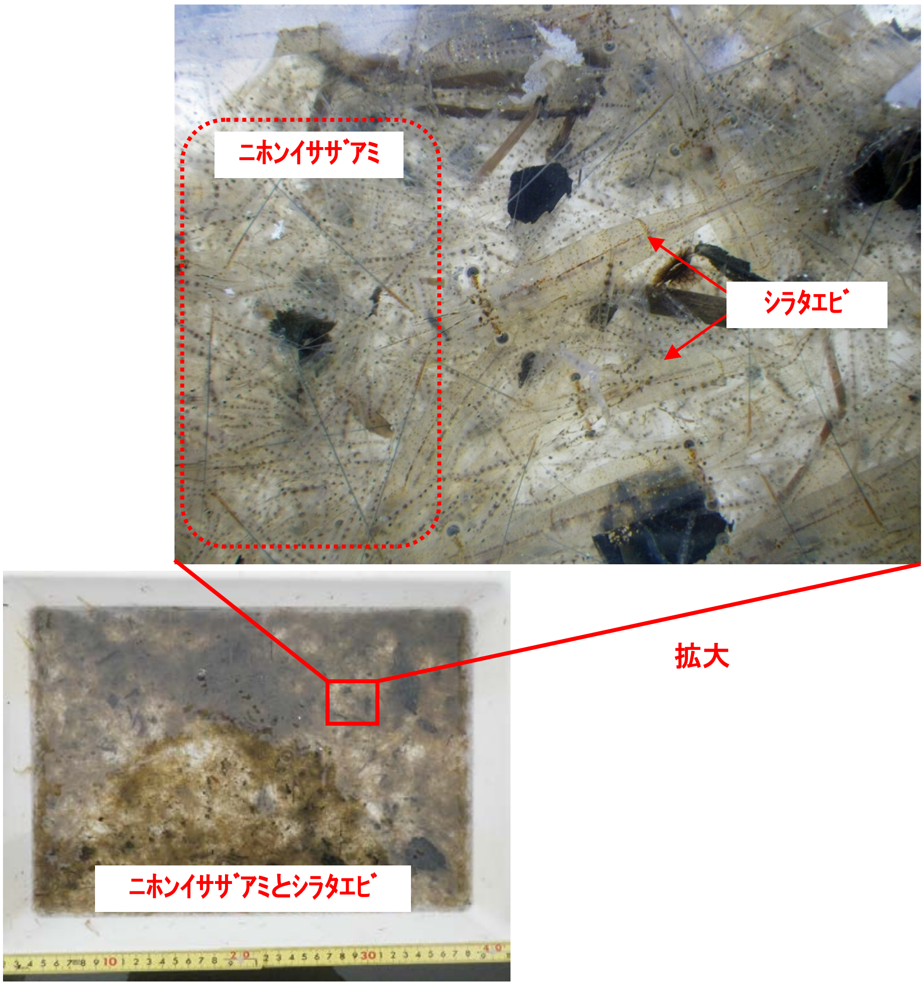
東京湾の干潟では、普通にみられるヤドカリである。

内湾の砂泥底に生息し、魚類の稚魚などを捕食することが知られている。



沖合から内湾にかけての広い範囲に普通にみられるクラゲの仲間。
傘が小さく、体が透明で目立たないため、見つけるのは容易ではない。
傘の柄の部分にみえるひも状のものは、口柄（こうへい）で、触手で捕らえたプランクトンをしゃぶるように捕食する。

葛西人工渚　採取試料

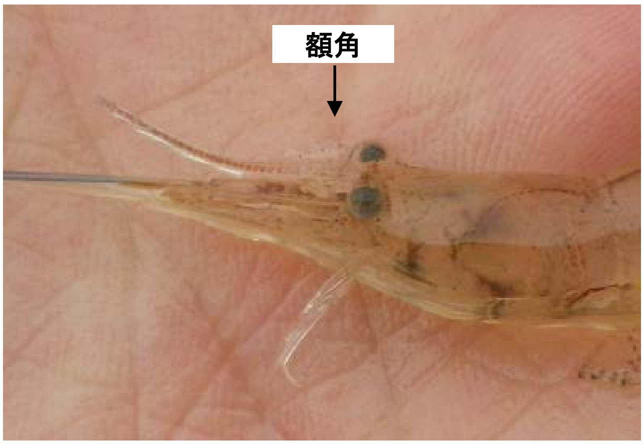


東京湾奥にある広大な人工干潟。
一般の立ち入りは禁止されており、
野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等

現地での目視では、採取試料中に魚類は確認されなかった。稚魚が育ち、沖合いに生息場所を移した可能性や、秋以降に卓越する北風の影響で、稚魚が接岸しにくいこと等が影響していると考えられる。

汽水域に生息し、スジエビ類よりも大型で、体長 7cm 程になる。
触角が青く、額角（がっかく:頭の上面のトゲ）がトサカ状に盛り上がる。



汽水域に生息するアミの仲間（エビの仲間でない）である。
魚類等の餌となり、食物連鎖において植物プランクトン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要な役割を果たしている。
幼稚魚調査の調査地点のうち、ニホンイサザアミの個体数は葛西人工渚が最も多い。